

「東日本大震災：南相馬市の状況と消防団活動」

福島県南相馬市消防団 副団長 長澤 初男



※本稿は、研修会での報告内容を掲載しております。

皆さんこんにちは。福島県南相馬市消防団 副団長の長澤初男と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。

まず、南相馬市をご紹介します。私の住む相馬地方は、福島県の浜通り、太平洋に面し、南相馬市は、平成18年1月1日、旧小高町、鹿島町、原町市が合併し誕生しました。本年、悲願の常磐自動車道が開通予定し、大きな飛躍発展が期待されておりました。

南相馬市は、温暖な気候とともに、海・山・川の豊かな自然に恵まれ、人情味あふれ、歴史と報徳仕法によって復興を遂げた歴史を伝承する、相双地方の中核都市です。

消防団は、新市誕生を機に統合発足し、定数団員1,365人、女性消防隊員16人を含めて3区団体制で組織しております。

相馬民謡と共に、当地方が全国に誇れる観光行事として、相馬野馬追があります。3日間に渡り、甲冑競馬や神旗争奪戦、野馬懸など行事を重ねます。今年は規模を縮小し、先週、開催致しました。今回の震災により、馬が約50頭亡くなっております。

本題に入ります。

ここで、今回の大震災を改めて振り返ってみます。発生日時、平成23年3月11日金曜日14時46分、牡鹿半島の東南東130km付近、深さ24kmを震源規模に、マグニチュード9.0。南相馬市は震度6強になりました。

南相馬市小高区の村上海岸の様子です。津波が襲う連続写真をご覧ください。高さ10数メートルの松の木を越えております。このような想像を絶する津波が襲いました。



津波が襲う瞬間の村上海岸(南相馬市小高区)



平常時の村上海岸(南相馬市小高区)



相馬野馬追

隣の市の相馬市の松川浦大橋の津波の直後の様子です。多数の方が犠牲になっております。



津波が襲った松川浦大橋(相馬市)

相馬市の隣、新地町のJR新地駅の津波で流された様子です。列車が流されております。被害者はゼロでした。この津波に流された列車には、相馬警察署の新任巡査が、警察学校卒業式直後、偶然にも乗車しておりました。津波が襲う前に乗客全員を新地町役場に避難誘導。遅れたおばあさんを通りかかった軽トラックに乗せ、無事に避難ができました。



JR新地駅(新地町)

原町区の特別養護老人ホーム、ヨッシーランドの被害の状況です。入所者や職員が逃げ遅れ、多くの犠牲者が発生しました。施設にいた35人が犠牲になりました。海岸より2kmで平坦地であったために被害が大

きくなったものです。



特別養護老人ホームヨッシーランド
(南相馬市原町区)

鹿島区の津波の被害状況です。小学校の校庭や国道6号まで漁船が流されました。海岸から国道6号までは3kmで、西側の鉄橋を越え4kmまで津波が到達しました。真野小学校の校庭にも漁船が流され、この付近で土中等の多くの遺体を消防団員が発見しております。

真野小学校には地震当時75人の児童がいましたが、団訓練指導員の父親で、児童のおじいさんにあたる方が津波が来るかもしれない、と学校に知らせ、全児童と教職員を2km離れた桜田山まで避難させました。校舎は被災いたしましたが、無事に避難できたわけです。



津波の被害(南相馬市鹿島区)



真野小学校前に打ち寄せられた漁船
(漁船から約3km)

国道6号を越えた津波



津波が襲う瞬間の鹿島区の海岸地域の様子です。

この後、多くの家屋が津波にのまれてきました。私が望楼から見た津波です。



震災直後の真野川の河口付近の様子です。この位置に真野川漁港があったのですが、跡形もなく無くなっております。そして真野川です。河川と陸地の境界が完全になく、一面が海になってしまいました。県道の真島橋とともに、引き波によって、多くの行方不明者が海に流されたものと思えます。



南相馬市の被害状況です。7月18日現在、死亡617人、行方不明54人、重傷者2人、軽症者57人となっています。津波により被災家屋は、全壊1,164世帯、床下浸水を含め全世帯数の約6.3%が被害に遭いました。

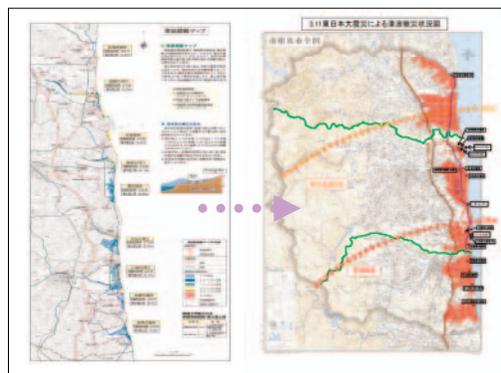
消防団の被害状況です。人的被害で、死亡8人、行方不明1人、重傷者1人、軽症

者4人、被災消防車両21台、全壊消防詰所20棟、半壊9棟。相馬地方の消防団殉職者は、相馬市消防団10人、新地町消防団1人の計11名が犠牲になっております。福島県全体では、27人の消防団員が殉職しております。

その他、相馬地方では警察官1人、市職員2人、新聞記者1人が亡くなっております。

こちらの図は、福島県のデータを基に南相馬市が平成20年に作成し、全戸に配布した津波ハザードマップです。想定する津波の高さが6mと、浸水が予測される地域はブルーの部分です。向かって右側の図をご覧ください。海沿いの赤い部分が今回実際に津波が到達した地域です。ハザードマップの予想を超え、このように多くの地域が被災しました。

津波による被害の面積は、市内全体の約1割を超える面積になっております。



大震災時の活動内容に入ります。

時間ごとに申し上げます。私は、14時46分地震発生時は経営する会社の事務所に家内といました。

14時48分、地震が収まるとともに、これは大変な地震であると津波を予想し、着替えをしながら妻に後を託し、4km先の区役所に向かいました。

14時49分に大津波警報が発令され、14時

50分南相馬市長が沿岸部に避難勧告を発令
防災行政無線で広報し、これを受け、消防
団は避難勧告の広報と住民の避難誘導を行
ったわけです。

14時55分、車中のラジオで大津波警報発
令を把握。

15時05分に区役所到着後、すぐに情報収
集、消防団の体制作りを行い、すでに活動
中の海岸部の団員に津波に注意、海岸から
離れるように指示し、ただちに、隣の消防
分署の望楼より海岸を確認。白い雲しか見
えず、これが大津波だったわけです。

15時51分、津波襲来。相馬検潮所で9.3
m以上を観測。ただし、相馬検潮所では
9.3mを指したまま故障した為、実際の津
波は15m以上であったと見られます。

15時55分、桜田橋、真野川を津波が逆流
をしているのを確認。

15時59分、東側県道より避難車輛が西に
進行し、大渋滞になりました。そのために
団員に高台への誘導を指示しながら、自ら
も交通誘導に当たりました。

16時45分、全団員の招集を指示し、17時
に区対策本部会議。対策協議し団員に今晚
以降の活動を指示したところです。至急の
現地被害調査確認をしての報告を求めまし
た。ここから長い一日が始まりました。

これは、原町火力発電所の被害の様子で
す。原町火力発電所を襲う津波の映像をご
覧下さい。ご覧のように、白い部分が津波
の様子です。このような状況で被害が起こ
ったわけであります。この映像は、3月14
日に原町火力発電所のタンクから漏れ出し
た重油に引火し、火災が発生したところ
です。我々は、行方不明者の搜索を中断し、
消防署とともに消火活動に当たりました。

これは、平成13年に完成しました鹿島区
の「みちのく鹿島球場」の様子です。球場
は、市が指定する「集落避難場所」となっ

ていたため、大勢の市民が避難しました。
消防団は、自衛隊や警察などと連携し、す
ぐに行方不明者の搜索活動を開始しまし
たが、この球場から10人の遺体が発見され
ております。

バックネット付近の様子です。スタンド
に避難し助かった人から、グラウンドに避難
した人が危ない、助けてという通報があり、
道路が冠水しているために行けない。そし
て、「1人沈み、また1人やられた」の声
に愕然とさせられ、助けられないもどかし
さ、ジレンマを強く感じておりましたが、
瓦礫と土砂に巻き込まれ犠牲になったわけ
です。

みちのく鹿島球場のグラウンドの様子



広域消防署員との深夜活動を指示。夜半、
救命ボートによる作業で近くの老夫婦を救
助、別の避難場所では、朝を待って救助に向
かい無事救助、救出しました。その後、区役
所にて朝を迎え長い一日が終わりました。

津波発生後の南相馬市の鹿島区の港地区
の上空からの写真です。37戸の集落 無傷
であった家がただ1戸です。45名が犠牲に
なっております。

南海老のグラウンド、ここは避難場所
でした。10数メートルの高台であります
が、30mを越える津波が襲い、多数が犠
牲になりました。避難場所によって運命を
分けたのです。

鳥喰溜池、これを越えてはるか相馬市まで津波は到達したのです。



八沢干拓の様子です。

ご覧のように港地区の県道がありますが、道路が寸断されております。すべての住宅が全壊しております。



鳥喰溜池で自衛隊と合同での搜索の様子です。行方不明者の搜索のため、満水の溜池の水を抜きましたが、泥抜きに苦労し7日間要しました。消防団の小型動力ポンプも、数台が故障しました。

ご覧のように寒い中での作業で、大変な苦勞をしました。自衛隊員の方々にも、大変なご苦勞様をかけました。この溜池からは、最終的に5台の車両と5人の遺体を発見しております。



警察との合同で行った、大シケ時の海岸での遺体収容作業であります。約1ヵ月、経過しております。

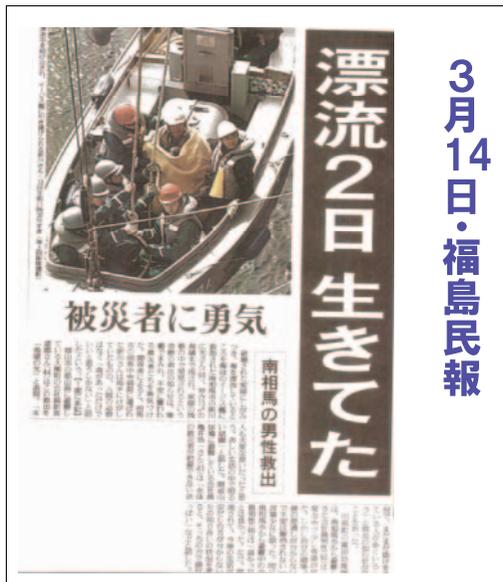
当日は、収容断念。翌日クレーンにてテトラを撤去し引き揚げました。まさに危険と隣り合わせの命がけの作業でした。



このように今回の搜索活動において、困難だった点は、一番が原発事故による制限、そして津波の余波、冠水、寒さ、夜間作業だったという点です。消防団員は災害対策本部職員とともに、休憩はなしで日中の作業に引き続き、夜間、防犯に対するパトロールを行い、ほとんど寝ずの晩を過ごしたわけです。

これは、私のいとこの夫の記事です。双葉沖まで屋根につかまり流されましたが、イージス艦に助けられたものであります。津波前には一度、夫婦で避難し助かったわ

けであります、物を取りに戻り被災しました。私のいとこであった妻は流され、いまだに行方不明です。漂流2日、奇跡の生還と言われました。



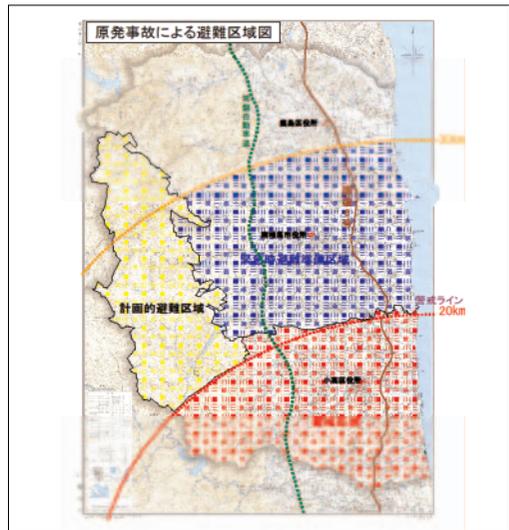
3月14日・福島民報

当地方では、地震・津波の被害のほか原発事故もあり、現在でも深刻な状況です。3月12日には、東京電力福島第一原発の1号機で最初の水素爆発。そのことを報じる地元紙の一面です。その後、3月14日には3号機が爆発、3月15日には4号機が水素爆発しました。

原発による、赤い区域が20km以内の警戒区域。

現在立入りができない区域です。青い区域が緊急避難区域。黄色い区域が計画的避難区域。それと特定避難勧奨地点と、まさに南相馬市は5分割の状況です。

放射能により汚染された地域というイメージで車両が来ない、物が入らない。特に燃料の不足は深刻でありました。ガソリンを求めて長蛇の列がガソリンスタンドにありました。……私たちも数日誘導に当たりました。



今回の震災は、私たち消防仲間の多くの命を奪いました。地元紙に載った相馬市の稲山分団長の記事です。住民に津波避難を呼びかけ、多くの命を救い、自らは犠牲となっていました。稲山分団長はじめ副分団長を含む9名が殉職しました。

南相馬市消防団の上野班長の記事です。6人家族だった彼は、妻以外、両親と2人の子ども、合計4人が行方不明です。歯をくいしばりながら消防団員として、行方不明者の捜索を行った活動の様子です。

この他にも、ただ1人行方不明の部長が両親とともに、いまだ発見されておりません。小学2年を頭に3人姉妹で母親、お祖母さんとともに仮設住宅の避難生活です。



福島民報・南相馬市消防団の上野班長

大震災後53日目にあたります四十九日を
終えてからの5月1日に、当消防団鹿島区
団において、多くの犠牲者を出した「みち
のく鹿島球場」で団員も含め、今回の津波
で亡くなった方や家族のため慰霊祭を開催
した様子です。



当地域では、平成18年10月に港地区を襲
った台風16号の影響で、被害がありました。
その時の様子です。ご覧のように、防波堤
が破壊されております。自主防災組織と消
防団の共同作業により、土嚢を積み、犠牲
者・行方不明者はありませんでした。

県道が冠水し、多くの家屋が床下・床上
浸水になっております。



破壊された防波堤です。

復旧された防波堤の様子ですが、今回の
津波でも壊れませんでした。ただし、離岸
堤無し防波堤、手前ですが、こちらは跡
形もなくやられております。

この写真は、高波被害で、あらためて地
域が結束し、自らの地域は自らが守るとい
う、自主防災の意 識を地域全員で確認し
冊子作成のために、昨年8月撮影した表紙
の部分です。このうち16名が犠牲になって
おります。

今回の教訓です。1 番目として、避難の
呼びかけを待ってから避難するという、こ
れまでの体制づくりから脱却し、自らが危
険を察知し、自主的に避難する体制を構築
していくことが必要であろうと思います。
自らの命は自らが守る、行動する、日常の
心がけ、備えが必要であると思います。

2 番目として、これまでの津波に対する
認識の甘さが、被害拡大につながったわけ
であります。今回の大震災の経験を後世に
伝えるのが、私たちの役目であろうと思
います。今回、家に戻って流され、犠牲者
が多く出たわけです。津波の怖さを再認識、
自覚すべきだと思います。

3 番目として、「来ない」ではなく、「来
るかもしれない」、いや「来る」という行
動が必要であると思います。万一の場合
想定した判断が求められます。

そして、地震、雷、火事、津波、プラス原発事故であります。今回の教訓は、まさに「怖さ」であろうと思います。

今回の教訓

- 1、避難の呼び掛けを待ってから避難するというこれまでの体制づくりから脱却し、自らが危機を察知し、自主的に避難する体制を構築していくことが必要。
 - 2、これまでの津波に対する認識の甘さが被害拡大につながった。今回の大震災の経験を後世に伝えるのが私たちの役目。
 - 3、「来ない」ではなく、「来るかもしれない」、いや「来る」という行動が必要。
- 「地震、雷、火事、津波、+原発事故」である

相馬地方の方言です。やっぺ南相馬。やろう南相馬。負けねえど南相馬。負けないう南相馬。という意味です。

地域の中で育てて来た絆を大切にし、かけがえのない仲間を失った悲しみを忘れず、団員結束のもと支え合いながら頑張っていく決意です。

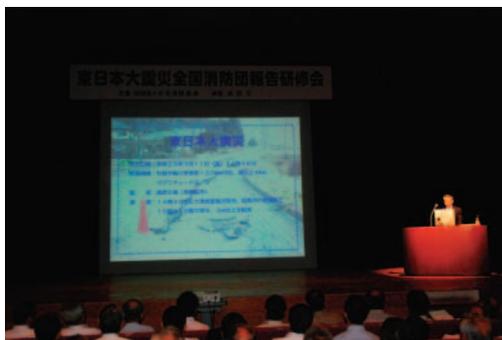
やっぺ南相馬、負けねえど南相馬！



相馬市の救援の様子です。小さな児童に自衛隊員が服を着せているところ、胸に迫る想いです。

最後になりますが、今回の東日本大震災に対しては、日本消防協会をはじめとして、全国各地の多くの消防関係者の方々に、暖かい励ましや多大なる物資、義援金等のご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。この支援を支えに、協調のもと復興に向けて頑張っています。

ありがとうございました。
皆さんの厚意は忘れません。



消防団報告活動を行う長澤副団長